

## 二本松市教育委員会会議録

平成30年9月27日午後3時00分二本松市教育委員会定例会議を二本松市役所教育委員会室に招集した。

○会議に出席した委員は次のとおりである。

教 育 長	丹 野 学
教育長職務代理者	佐 藤 英 之
教 育 委 員	奥 平 紀 文
教 育 委 員	柘 智 美
教 育 委 員	関 奈 央 子

○会議に説明のため出席した職員は次のとおりである。

教 育 部 長	市 川 博 夫
教育総務課長	石 井 栄 作
学校教育課長	原 田 真 一
生涯学習課長	服 部 憲 夫
文化課長	塩 田 英 勝

○教育長（丹野） それでは、ただいまから平成30年二本松市教育委員会9月定例会を開会いたします。

（宣言 午後3時14分）

○教育長（丹野） これより会議に入ります。

委員の出席状況を報告します。

現在の出席者は、5名であります。会議の定足数に達しておりますので、本会議は成立いたしました。

次に、「2 会議日程の決定」ですが、会議が終了するまでといたします。

続きまして「3 会議録署名人の決定」ですが、奥平紀文委員、関奈央子委員の2名を指名いたします。

「4 前回会議録朗読承認」ですが、事務局よりお願いします。

（事務局より、平成30年8月23日の会議録を朗読）

○教育長（丹野） ただ今事務局より朗読がありましたが、これについて皆様からご質問等ありますか。

（質問なし）

○教育長（丹野） それでは、ただ今の会議録については、承認することよろしいですか。

（異議なし）

○教育長（丹野） ただ今の会議録については、承認されました。

次に、「5 教育長報告」ですが、会議資料の1ページをご覧いただきたいと  
思います。はじめに、「1 市議会9月定例会について」、事務局より願  
います。

(事務局より説明)

- 教育長(丹野) 一連の答弁について概要の説明がありました。特にここで  
話題にすべきことがありましたら。
- 教育委員(柘) 中学校の外国語科におけるラウンド制の導入について、のラ  
ウンド制というのが分からないので教えていただければ。
- 学校教育課長(原田) ラウンド制という言葉につきましては、今回質問があ  
りまして初めて確認して調査したんですけれども、中学校の英語科において、  
ひとつの教材を、例えば最初に読むことを進め、そして2ラウンド目は書いて  
覚えたり、書くことを中心に進め、そして最後は英会話をするということを3  
ラウンド目でやるというふうなことで、ひとつのまとまりを作ってそれを繰り  
返してやるということで習熟を図るというふうなやりかたをラウンド制と呼ん  
でいるということでございます。
- 教育長(丹野) ちなみに、本県では実施しているところはありません。これ  
は、かなり力のある地域の子どもたちでないと難しいかなという感じはします。
- 教育委員(奥平) 感想なんですけれども、議員さんに学力のレベルを尋ねら  
れて、平均以下の学習力であると言われた時の議員さんたちのがっかりした顔  
が浮かんだかなくらいで、予算がかかっている分の結果がこうやって言われち  
ゃうと悩むのかなと個人的に思いました。
- 教育長(丹野) この件は私も教育長として非常に責任は感じているんですが、  
当然のことながら言ってすぐに1か月で成績が上がるわけでもないし、日々子  
どもたちは小中学校で勉強しているんですけど、その勉強の質がどれだけ高く  
なるかというのを毎日続けないと、力はつかないというふうなことなので、じ  
っくり考えてやるわけにもいかないんですが、なぜかと言うと、これから2年  
間かけてやると言ったって、その間に子どもは育っていくわけですから、でき  
るだけ子どもたちが学びがいがある授業になれるように校長先生と話をしなが  
ら質を高めていくという努力をしない限りは、それしか解決の道はないと思  
っています。基本的に、当たり前なことなんですけど、だめな子どもっていない  
んですよね。何らかのいいものを一人ひとりの子どもが持って生まれてきて、  
そのことに気が付かずに、開花せずに大人になっている人も多いわけですから  
ね。それを学校の中でやっぱり見出して育んでいかなければという部分をすご  
く私は感じます。そういう意味では、教師の仕事というのはすごく大変な仕事  
だなというふうに思うんですが。
- 教育長職務代理者(佐藤) 子ども自身というのは、目標とか意欲を持つとき

というのは面白い発想がいっぱいあって、こんな発想するのというのものもあるんです。先生によっては、それをどう伝えるかというのに重きを置いてる人もいますので、それはおそらく今の子どもたちが大学受験になるときに求められる力でもあるので、そういうところを意識してやっているかなというふうに思います。私も算数のTTで入っていますが、基礎的なものが分からなかった子どもが1年間かけてると結構覚えてくるんだなという感じは持っていますので、地道にやっていくしかないかなと思います。

○**教育長（丹野）** 本当に簡単でないんですね。難しいファクターがいっぱい二本松市の教育長になって考えていて、結局、学校の中だけで完結する課題じゃないんですね。保護者も関係するし、地域も関係するし、あと皆さんご存知のとおり、発達障がいのお子さんが増えてきている中で、そういうお子さんに対する親の理解というのを考えたときに、当然100パーセントではないけれども、かなり遺伝も関係してくると。つまりお子さんが発達障がいでと、どうしてもご両親も発達障がいの傾向があるというふうなことから、そういう子どもに対する接し方とか学ばせ方の理解というものが、学校だけでやっていくのにも無理があって、本市にも発達障がいとか特別支援教育に関するプロパーが必要だなというふうに思っているところがあって、それをなんとか少しでも形作っていくということが、学校ひいてはそういう子どもさんたちが学びやすい学校になっていくのかなとも思っていて、いろんなファクターがあるので、市長の理解があるので財政の方にも協力してもらいながら、改善すべき点は改善していかないとだめだなと思っています。

○**教育委員（関）** 市民プールの利用率向上のためのイベント等の計画ということで仰っていたのは、利用率が低くなってきたからとかそういうことではなく、この前お邪魔したらたくさん人が来ていたので、どうなのかなと思ったんですけども。

○**生涯学習課長（服部）** 利用率が下がっているというわけではございませんでして、利用率のほうも当初年間6万人を見込んでいたものが、約8万人ほど来ておりますので、これから下がらないようにということと、これからさらに伸びるようにということで、8月の初めにナイトプールというのを実施いたしました。当然費用も掛かりますので、自主事業では大変厳しいという指定管理者の意見もありまして、それについては今後いろいろ市と指定管理者で協議をしていきたいというふうに考えております。

○**教育長（丹野）** それでは1番の報告についてはよろしいでしょうか。では、2番目に入ります。「2 市民体育祭における表彰者について」、事務局よりお願いします。

（事務局より説明）

○教育長（丹野） 二本松市栄誉賞受賞者というのは、体協のほうは体協の会長名なんだと思いますが、これは二本松市長名で市長が表彰するということですよ。

○生涯学習課長（服部） そうです。

○教育長（丹野） これについてはよろしいでしょうか。じゃあ次に参ります。3番目、「3 「中村雅俊コンサートツアー2018」について」、事務局よりお願いします。

（事務局より説明）

○教育長（丹野） それでは、4番目に入ります。「4 その他」、事務局よりお願いします。

（二本松市教育事務の点検評価検証委員会の結果について事務局より説明）

○教育長（丹野） 今回皆さんにご提出申し上げているのは学識経験者の意見です。この意見を皆さんの意見によって変えるわけにはいかないんですけれども、この機会に皆様の方からご意見をいただくというふうな意味での趣旨の話というふうに受け止めていただければ結構です。

○教育長職務代理者（佐藤） いろんな行事に参加してみると、地域とか保護者というのは同じ人がいろんなところにいっぱい出ているんですね。そのところが学校と地域の協働というのも同じメンバーが苦勞して同じメンバーでやっているような部分があるので、それを幅広く進めていくのが今後大事なんだろうなということで、連携協働によって更なる効果が期待できると感じるというところは、そういう視点が必要なのかなというふうに思いました。それから、事業評価にあたっては、短いスパンでの成果の要求ということに関してはなじまない面もあると言いますが、長期、短期、中期の目標を持っていろんな事業を進めていく必要があるんだろうなというふうに感じました。

○学校教育課長（原田） 評価のスパンの件でございましたけれども、子どもは、その年、その時間、その学年でしか学べない部分があるというふうなところがございまして。また、先ほど奥平委員の方から議員さんの悲しい表情が思い浮かぶというような話がございましたけれども、それを学校が、校長が保護者に対してうちの学校はこんな結果でしたよ、全国学テの結果は全国平均をやや下回ってましたとかいうふうに話をした時の保護者の表情と私は一緒にしながら聞いておりました。ですので、長い期間をかけてじっくり改善していくべきものもありますけれども、子どもにとってはその時その時が勝負であるというふうなものもございまして、その点をしっかりと学校教育課の関連事業については十分検証しながら改善すべきところは改善していくということで、進めていくと、そしてそれを学校現場自身も校長のほうでしっかり把握をして、目の前の子どもたちのために素早く改めていくものは改めながら指導にあたっていく

ということが大事なのかなと感じていたところでございます。

○**教育委員（奥平）** 個人的な意見としては、学校の勉強を進めていくうえで学力を上げる努力を今までずっとしてきたと思いますし、その努力は認めているんですけど、学力が上がらなくてもしょうがないと思っている部分もあります。それよりも大事な部分というのが子どもたちのコミュニケーション能力が高ければ社会に出てもやっていけるだろうし、でも勉強をやれやれというのは、その子どもの将来の可能性を広くするのが勉強の積み重ねだと思っているので、親として学力を上げて欲しい、だけど、それが叶わなかったとしても一生懸命やったことが確認できれば、そんなに落ち込みもしないと思っています。学校に期待はしています。だけど、その期待に添わなかったからといって非難するとかではなく、そうなって欲しいなぐらいの感覚で親はいいんじゃないかなと思っています。

○**教育長（丹野）** 今の奥平委員の話というのは、学校教育だけじゃなくて生涯学習というか、もっと広いですね。生涯学習課長いかがですか。

○**生涯学習課長（服部）** 学校の勉強だけではなくて、地域とか、いろんな業種を見させていくというのは将来に向けて有意義な部分もあるのかなと思いますし、本当に勉強だけではないのかなと考えたところでございます。例えば、老人クラブの方から昔の遊びを教えてもらったりとか、そういう部分でコミュニケーション能力とかも育っていけば、社会に出ても通用する部分もあるのかなというふうに感じております。

○**教育長（丹野）** 文化の振興と学力の関係というのは、塩田課長はどんなふうに考えていらっしゃいますか。

○**文化課長（塩田）** 県内でも二本松市ほど学芸員を中心に埋蔵文化財の発掘をしている市はございません。たいがいの市は学芸員が確保できずに民間業者に委託をしたりということが増えてきております。その中で二本松市におきましては、学芸員を中心に自前でやっておるんですが、そういった積み重ねをすることによって、それぞれの学芸員のスキルを上げていくということもございますが、少ない学芸員の中で一生懸命埋蔵文化財の発掘調査をしております。文化財の保存、修理に関しましては、懸田先生という素晴らしい先生がいらっしゃいますので、先生の指導を受けながらやっておりますが、こちらにつきましても後継者がなかなか確保できないという問題を抱えつつも、なんとか市の補助金や国県の補助金をうまく使っていただいて継続をしていただいているというような状況でございますので、これを続けるためには、助成というのも大事だなというのを実感しております。

○**教育長（丹野）** 文化課長から後継者の話がありましたけど、これは学校教育における教員の養成でもまったく同じで、いま二本松市出身の教員というのが、

昔はそれなりに輩出して安達の教育は安達でやれたんですよね。いま本当にほかから来ちゃうから何年かで元に戻っちゃうという状況にもなっていて、今の側面からいってもある程度基礎基本の学力というか、一定基準の学力を子どもにつけていかないと現実的に厳しい状況になっているということも確かですよね。

○**教育長職務代理人（佐藤）** 日下部先生の講演を聞いたことがあるんですが、原瀬の遺跡の発掘は高校生が主体になってやったとか、そういう流れがこの地区にはあるんだということを知ったことがありますけど、地域の発掘に興味を持つような学校教育とか、結びつきというのは大きいんだろうと思います。ただ、地区を知る人が子どもたちにいろんなものを教えてくれればいいんですけど、そのためには地元出身の人も増えて欲しいなと思います。

○**教育委員（関）** 学力のことについては、日々私自身いろいろ考えてまして、やはり奥平さんが仰ったように、将来自分がやりたいことをやるためにも基礎的な学力は必要で、何をやるにもテストとか面接のコミュニケーションとか、そういうことにもやはり基礎的な学力は大事というのは日々思っています。

○**学校教育課長（原田）** やはり最低限としての基礎基本としての知識はまずは身につけていかなければならないでしょうし、そしてその上で、それを応用して、そして自分の生活の中で生かしていくような活用力が将来の自分にとって社会に出た時の、自分でいろいろな適性を見極めて社会の中で生きていけるといふような力をつけるためには必要なことになってくると思いますので、まずはやはり基礎的な力は着実に義務教育の中ではしっかりと身につけさせることが最低条件であるし、更にはその上で、それぞれの子どもの適性に応じて何か自分の興味関心の持てるもの、それが将来、文化面でもスポーツ面でも生かせるものが自分の中で身につけばそれが自信になって、そして二本松のため、または日本のためというふうなことで活躍できる人間になっていくのかなというように感じました。

○**教育委員（柘）** 去年の決算の資料を見ていて、図書館の利用者数が載っていたところがあって、登録者数が1万2千人くらいになっていて、二本松の人口が5万何千人なので、そんなものなのかって。例えば本が身近にあって常に何か見たりとか読んだりとかできる環境とかそういうのがあれば、テストの問題を読む力にも結び付いてくると思うし、子どもたちに常に気軽に何かを読む場所や環境を充実させてあげられたらと思います。

○**教育長（丹野）** それでは、この辺で教育長報告を閉じてよろしいでしょうか。それでは続きまして「6 提出議案」に入ります。

「議案第25号 二本松市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令の制定について」並びに「議案第26号 二本松市教育委員会公印の告示について」

を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

(事務局説明)

○教育長(丹野) 説明が終わりました。この件について、質疑、ご意見等はいかがでしょうか。

(なし)

○教育長(丹野) それでは、採決に入ります。

ただいま議題となっております、「議案第25号 二本松市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令の制定について」並びに「議案第26号 二本松市教育委員会公印の告示について」は、原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○教育長(丹野) ご異議なしと認めます。

よって、「議案第25号 二本松市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令の制定について」並びに「議案第26号 二本松市教育委員会公印の告示について」は、原案どおり可決しました。

○教育長(丹野) 続いて、「議案第27号 二本松市社会教育指導員の任命について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

(事務局説明)

○教育長(丹野) 説明が終わりました。この件について、質疑、ご意見等はいかがでしょうか。

(なし)

○教育長(丹野) それでは、採決に入ります。

ただいま議題となっております、「議案第27号 二本松市社会教育指導員の任命について」は、原案どおり可決することにご異議ございませんか。

(異議なし)

○教育長(丹野) ご異議なしと認めます。

よって、「議案第27号 二本松市社会教育指導員の任命について」は、原案どおり可決しました。

○教育長(丹野) 以上で提出議案については終わりました。次に、「7 協議事項」に入ります。

はじめに、「1 平成30年度行政視察について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

(事務局説明)

○教育長(丹野) よろしいですか。それでは続いて「2 次期教育委員会の開

催日程について」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

(事務局説明)

○教育長(丹野) よろしいでしょうか。次に、「3 今後の日程」を議題といたします。

事務局の説明を求めます。

(事務局説明)

○教育長(丹野) 次に、「4 その他」を議題といたします。

○教育長(丹野) 事務局から、その他ありますか。

(配布資料について説明)

委員の皆様からは、何かございますか。

(なし)

○教育長(丹野) 以上で協議事項を終わります。

以上で、定例会の日程は、全部終了いたしました。

これをもちまして、平成30年二本松市教育委員会9月定例会を閉会いたします。ありがとうございました。

(宣言 午後4時44分)